

英語教育学サブプログラム

専門科目(英語教育学)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時間	教室	担当教員	授業概要	備考
OABALA1	英語教育学IA	1	1.0	1・2	春AB	月2	人社A721	卯城 祐司	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が英語の「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを探り、その応用として教室における英語リーディング指導の在り方を検証する。	西暦偶数年度開講。 対面 授業形態(オンライン・対面など)については、開講1週間前までに、manabaで通知する。
OABALA2	英語教育学IB	1	1.0	1・2	秋AB	月2		卯城 祐司	本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語の「読み」の理論と実践研究にかかわる諸問題を考察していく中で、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、外国語習得理論および英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、さらには、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	西暦偶数年度開講。 対面 授業形態(オンライン・対面など)については、開講1週間前までに、manabaで通知する。
OABALA3	英語教育学IIA	1	1.0	1・2					本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。最新の文献から、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、特に読み手の知識や経験、関心、スタイルおよび認知的な要因が英語の「読み」にどのような影響を与えているのか、読み手の心の中に生じているプロセスの分析を試み、リーディング能力の優劣はどのような要因から決定されるのかを検証する。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABALA4	英語教育学IIB	1	1.0	1・2					本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、文字言語情報をより正確かつ高度に処理するプロセスやその習得の解明を目指していく。特に、英語リーディングおよび心理学など関連分野の理論を学び、英語の「読み」の理論と実践研究の諸問題を考察し、受講生が各自の問題意識を鮮明に持つよう討議を進め、英文読解理論の究明に寄与する実験研究の手法やリサーチデザイン、理論に基づく教室における英語リーディング指導の在り方を学んでいく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALB1	英語教育学IIIA	1	1.0	1・2	春AB	金4	人社A721	磐崎 弘貞, 末森 咲	本講義では、語彙指導を中心に据えながら、英語教育学分野における実践的な手法を、その理論的背景と共に理解することを目指す。先行研究および授業ビデオを活用しながら学び、4技能5領域における幾多の授業手法が、どのような原理に基づいているのかを解明することで、授業実践に係る原理と効果的な指導法を理解していく。さらに、こうした点を授業実践力育成の観点からグループ・ディスカッションをすることによっても、理解を深める。	西暦偶数年度開講。
OABALB2	英語教育学IIIB	1	1.0	1・2	秋AB	金4		磐崎 弘貞, 末森 咲	本講義では、英語教育における統語構造および語彙文法の学習を、いかにコミュニケーション活動と統合して、実践していくかを学んでいく。そのために、取り上げる統語構造および語彙文法を、先行研究における指導上の留意点および英語学の観点から学び理解を深めた上で、Focus on Formの枠組みを用い、そうした事項をいかに効果的なコミュニケーション活動に落とし込んでいくかについて学ぶ。このために、グループディスカッションも取り入れ、理論・実践の両面から理解を深める。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABALB3	英語教育学IVA	1	1.0	1・2					本講義では、英語教員および英語研究者として必要な学術的表現力、特にアカデミック・ライティング力を向上させることを目指す。このために、(a)学術領域におけるライティングの日英語の発想の違いを理解し、(b)論文執筆に必要なreferencesおよびオンライン/オフライン・コーパスの検索技術を理解し、(c)英文要約の効果的な手法を理解した上で、(d)APAスタイルで英文を執筆する手法と推敲方法を学んでいく。このために、毎回の事前課題提出および授業内のディスカッションを重視して、こうした点の理解を深める。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)

OABALB4	英語教育学IVB	1	1.0	1・2						本授業では、先行文献における英文実証研究を参考にしながら、リサーチ内容を発表する上での、効果的なプレゼンテーション手法について理解を深める。そのために、国際学会での発表を念頭に、APAスタイルでのリサーチ概要のまとめ方、議論の組み立て方、学術用語の定義、難解表現のparafrases、効果的なスライド作成、メモを読まずにスライド上のキーワードを基に発表する手法、効果的なアイ・コンタクトについて、実践的に練習を行い、ピア・フィードバックも交えて発表スキルを高めていく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALC1	英語教育学VA	1	1.0	1・2	春AB	木4	人社A721	平井 明代		本講義では、コミュニケーション能力とはどのような能力で構成されているのか、さまざまな言語モデルに触れ、その構成されている概念に関する知見を深めることを目標とする。これらの構成概念の中で、日本人学習者にとって重要と思われる語彙や文法能力を如何にコミュニケーションの中で使えるようになるかについて、モデルを基礎、講義や討論を交えながら、その理論と教授法についての知識を深める。そしてそれを如何に評価していくかを考察していく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンラインに変更する。 Manabaで通知する。 西暦偶数年度開講。 対面
OABALC2	英語教育学VB	1	1.0	1・2	秋AB	木4		平井 明代		技能統合的タスクやパフォーマンス能力に関する理論と指導方法を踏まえ、その評価方法の知識を習得することを目標とする。具体的な技能統合的タスクの事例を上げ、それぞれのタスクが、どのような現実のコミュニケーション能力に効果があるかを議論することによって、その理論と指導法の知識を深めることを狙いとする。その後、それぞれのタスク講義と討論を交えながら、その理論と教授法についての知識を深める。その後、それらのタスクを如何に評価していくかを考察していく。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンラインに変更する。 Manabaで通知する。 西暦偶数年度開講。 対面
OABALC3	英語教育学VIA	1	1.0	1・2						本講義では、4技能の伸びや授業の進み具合の評価についての理論とその評価手法について学んでいく。中でも生徒の学習状況を知るため、また、成績を付けるためにテストを実施することは不可欠である。そのテストを作成する際にどのようなことに気をつけて作成すればよいのか、テストによって派生する効果について講義と討論をとして知識を深めることを目標とする。特に、大学入試改革における現状のテストで求められる能力、その能力を身につけるためのテストと評価のあり方を考えていく。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。オンライン(同時双方向型)
OABALC4	英語教育学VIB	1	1.0	1・2						本講義では、教授方法の違いによる言語の伸びの測定や認知能力の心理測定についての理論を学んでいく。古典的テスト理論から項目応答理論、効果量の測定、一般化可能性理論、構造方程式モデリング、メタ分析などさまざまな現代のテスト理論とその手法について関連文献を読み進めながら知識を深めていくことをねらいとする。その中で必要な統計手法の実践や実際にその手法が使用されている文献を探ることで、理論だけでなく実際に研究に応用できるようになることを目指す。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALD1	英語教育学VIIA	1	1.0	1・2	春AB	火2	人社A721	小野 雄一		本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、多読、多聴、語彙、発音についての教室外学習、ダイアログ、日記、オンライン素材、ゲーミフィケーション、ソーシャルメディア、交流サイトについて概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALD2	英語教育学VII B	1	1.0	1・2	秋AB	火2		小野 雄一		本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、PBL学習、PBL協働学習、自律的学習、エコーズ、ビデオ制作についての教室外プロジェクト、海外研修、異文化遭遇、教員養成、文化的利益、ホームチューターなど母語話者との交流について概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面

OABALD3	英語教育学VIIIA	1	1.0	1・2						本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、コンピュータを活用した学習、CALLからTELLへ、デジタルという文脈、ハードウェアの役割、リスニングスキル、スピーキングスキル、リーディングスキル、デジタルテキストについて概観する。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。オンライン(同時双方向型)
OABALD4	英語教育学VIIIB	1	1.0	1・2						本講義では、Computer-Assisted Language Learning (CALL)に関する基礎理論や、CALL授業のモデルに関する実践と研究の方法論を理解する。そして、言語学、情報工学、教育学など、積極的に他分野からの文献を引用し、学際的な視野から論点が整理できるようになる。具体的には、ライティング支援、協働ライティング、視覚情報の役割、マルチモーダルな学習、仮想的な学習環境、協働的プレゼンテーション、若者とテクノロジー、安全と子供たちの保護について概観する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALE1	英語教育学IXA	1	1.0	1・2	春AB	水3	人社A721	土方 裕子		本講義では、生後すぐからバイリンガル環境で育てられた子どもがどのように二言語を発達させるのか、ケース・スタディを通して音韻・語彙・文・言語選択の各観点から検討する。また二言語獲得過程を調べるための研究方法、特にデータ収集およびその分析方法を修得する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALE2	英語教育学IXB	1	1.0	1・2	秋AB	水3		土方 裕子		本講義では、バイリンガル環境で育つ子どもがどのように二言語を発達させるのか、特にバイリテラシーとアイデンティティの関係に焦点を当てて検討する。具体的には、複数のケース・スタディを通して、読み書きの発達過程にアイデンティティやイデオロギーがどのように影響するかを理解する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALE3	英語教育学XA	1	1.0	1・2						この授業では、外国語教授法の効果検証、質問紙調査、ケース・スタディ、心理言語学的手法など、第二言語習得 (SLA) 分野で多く用いられる研究方法を概観する。そしてどのような研究課題に対してどの手法を使うべきか適切に選択できるようになることを目標とする。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。オンライン(同時双方向型)
OABALE4	英語教育学XB	1	1.0	1・2						本講義ではリサーチ・シンセシスやメタ分析を遂行した論文を読むことにより、第二言語学習や効果的な英語教授法に関する知見を深める。またリサーチ・シンセシス及びメタ分析の実施方法を理解し、データベースを使用した文献検索やコーディングなどの過程を体験し、受講生自身の研究テーマに近い内容で実際にリサーチ・シンセシスやメタ分析ができるようになることを目標とする。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALF1	英語教育学XIA	1	1.0	1・2	春AB	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方 裕子		本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生に対して、英語教育学の理論および実証研究を概観し、研究および実践上の指導的役割を果たし得る学識と能力を培う内容を講義する。特に本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、理論的および実証的研究成果や知見をもとに、学習者の言語や認知的な発達をふまえた言語能力および伝達能力の教授可能性や方法論を考察する。	14条対応学生のみ履修可 西暦偶数年度開講。 14条対応
OABALF2	英語教育学XIB	1	1.0	1・2	秋AB	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方 裕子		本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生に対して、英語教育学の理論および実証研究を概観し、研究および実践上の指導的役割を果たし得る学識と能力を培う内容を講義する。特に本講義では、外国語として英語を学ぶ上で、理論的および実証的研究成果や知見をもとに、教室における英語教授法の在り方を検証し、実践への具体的な提言や示唆を与えることを目指していく。	14条対応学生のみ履修可 西暦偶数年度開講。 14条対応。オンライン(同時双方向型)
OABALF3	英語教育学XIIA	1	1.0	1・2						本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に、外国語として英語を学ぶ上で、英語教育学および関連分野の理論的および実証的研究成果や知見をもとに、学習者の言語や認知的な発達をふまえた言語能力および伝達能力の教授可能性や方法論を考察する。	14条対応学生のみ履修可、必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 14条対応。オンライン(同時双方向型)

OABALF4	英語教育学XIIB	1	1.0	1・2						本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に、外国語として英語を学ぶ上で、英語教育学および関連分野の理論的および実証的研究成果や知見をもとに、学習者の言語や認知的な発達をふまえた言語能力および伝達能力の教授可能性や方法論を考察する。そしてとりわけ、教室における英語教授法の在り方を検証し、実践への具体的な提言や示唆を与えることを目指していく。	14条対応学生のみ履修可、対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 14条対応、対面
OABALH1	英文法研究I	1	1.0	1・2	春AB	木3	人社B615	宮腰 幸一, 加賀 信広, 柳田 優子, 山村 崇斗	英語学/言語学に関する文献の読解演習を通して、英文法・英文読解方法を学びながら、英語の様々な構文と対応する日本語構文との比較・対照から見てくる「英語らしさ/日本語らしさ」について考察する。	オンライン(同時双方向型) 西暦偶数年度開講。 対面	
OABALH2	英文法研究II	1	1.0	1・2					生成文法における言語習得論の仮説について学び、第一言語獲得と第二言語獲得の違いに関して考察する。とくに、認知言語学における言語習得観と対比しながら、言語習得メカニズムに関しての議論を深める。生成文法理論における、言語の普遍性、ヒトの文法能力とは何かについて学び、動詞句、名詞句構造、補文構造、移動構文、空範疇、機能範疇など実証的事実を通して、文や句の階層性の概念を習得する。	オンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)	
OABALJ1	英語圏の文化・文学I	1	1.0	1・2	秋AB	木3		山口 恵里子, 竹谷 悦子, 中田 元子, 馬籠 清子	英語圏の中でもとくにイギリスを中心とした文化・文学について学ぶ。イギリスの文化・歴史について書かれた文献によって基本的な全体像をつかむ。本年度は、イギリスと日本の文化的交渉に関する文献をよみ、「イメージ表象」についての考察を行いつつ、英語についての知識を深める。授業は演習形式で行い、自らの思考を的確に表現できる力を養成する。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方向型)	
OABALJ2	英語圏の文化・文学II	1	1.0	1・2					本年度は、人種とジェンダーという文化的差異をテーマとして、18世紀から20世紀のアメリカの文化・文学を多角的に検証する。毎回、英語によるディスカッションをとおして批判的思考力と発信力を養う。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面	
OABALL1	英語教育学演習I	2	1.0	1・2	春AB	火5	人社A721	卯城 祐司	本講義では、講義、演習、発表、討論、演示、授業参観など、多面的な学習活動を結合した形で展開する。マイクロ・ティーチング(模擬授業)の機会を多く取り入れながら、テキストにより知識の整理と問題意識の焦点化を図る。「英語で英語を読む授業」の進め方を中心に、オーラル・イントロダクション、発音指導、4技能の指導と統合的指導、コミュニケーションな言語活動、学習ストラテジーへの焦点化、指導案の作成、教科書の活用、授業分析、発問スキル、テスト作成と評価にもふれる。	西暦偶数年度開講。 対面 授業形態(オンライン・対面など)については、開講1週間前までに、manabaで通知する。	
OABALL2	英語教育学演習II	2	1.0	1・2					本講義では、講義、演習、発表、討論、演示、授業参観など、多面的な学習活動を結合した形で展開する。マイクロ・ティーチング(模擬授業)の機会を多く取り入れながら、「英語リーディング指導を核とした4技能5領域の統合型授業」の進め方を学ぶ。具体的には、オーラル・イントロダクション、発音指導、4技能の指導と統合的指導、コミュニケーションな言語活動、学習ストラテジーへの焦点化、指導案の作成、教科書の活用、授業分析、発問スキル、テスト作成と評価にもふれる。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)	
OABALM1	英語教育学演習III	2	1.0	1・2	秋AB	火5		磐崎 弘貞, 末森 咲	本講義では、実際の英語教科書を活用し、各教科書の構成を確認した上で、英語による授業運用方法について学んでいく。このために、口頭による授業導入、コロケーションを含む新出語彙の提示、新出文法事項導入時の既習知識との結び付け、リーディング活動における内容理解を促進する音読と発問、そしてそれらを統合し、コミュニケーションに結び付けるFocus on Formの手法を理解していく。こうした点を授業実践力に生かすため、研究授業ビデオも参考にした上で、英語による模擬授業を行う。	西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方向型)	
OABALM2	英語教育学演習IV	2	1.0	1・2					本講義では、実際の教材を用い、各種活動の理論的背景を理解した上で、実際に英語で授業を行うための実践力を学んでいく。このために、名詞・動詞を中心とする語彙をコロケーション提示する手法、授業におけるICTの活用、適切な英文用例の選択と提示、効果的プレゼンテーション手法も理解した上で、それをコミュニケーション活動に生かす模擬授業を行う。模擬授業は、教室言語を英語として実践し、それについてのピア・フィードバックをし、他の授業ビデオも参考にして、実践的授業力向上を図る。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面	

OABALN1	英語教育学演習V	2	1.0	1・2	春AB	月4		平井 明代	本講義では、演習を中心に、学習指導要領で何が求められているか理解を深め、それを実践するための理論的背景や指導法を概観し、授業内でどのように生かすことができるかを学ぶことを目標とする。扱うテーマは、技能統合的パフォーマンスの指導、アクティブラーニングによるスピーキング活動と評価、フォーカス・オン・フォームやCLILなどについて学ぶ。そして、授業ビデオや中高の公開授業などを通して、どのように生かされているか、その指導法を観察する。最後に、指導案を作成し、模擬授業を行い内省する。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンラインに変更する。Manabaで通知する。 西暦偶数年度開講。 対面
OABALN2	英語教育学演習VI	2	1.0	1・2					本講義では実践演習を中心に、技能統合タスクやパフォーマンスタスクの指導の実践および評価を行っていく。4技能の評価方法に加え、Can-do評価、CEFRIに基づいた評価、ルーブリック作成、フィードバックの与え方、ポートフォリオを使用した内省による評価などを概観する。その後、実際にタスクやテストを作成し、授業で使用し、評価を行う練習をする。教師役と生徒役の立場に立ったときのフィードバックや内省、評価得点の分析や生徒への選元の仕方について議論する。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABAL01	英語教育学演習VII	2	1.0	1・2	春AB	金3		小野 雄一	毎回優れた授業実践事例について、担当者が発表を行う。その上で、討論を行い、望ましい授業をデザインする。具体的には、英文の内容を理解するだけの英語授業でよいのか、内容理解の先に批判的検討や意見交換がある授業、英語で議論できる教育、グラフィック・オーガナイザーを用いた内容理解活動、クリティカル・リーディングの授業、批判的思考力の測定、英語が苦手な学生がスピーチを楽しむ、授業実践例、生徒が身を乗り出してくるタスクとは、などを取り扱う。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABAL02	英語教育学演習VIII	2	1.0	1・2					毎回優れた授業実践事例について、担当者が発表を行う。その上で、討論を行い、望ましい授業をデザインする。具体的には、生き方が見えてくる英語授業、思考力育成へ向けた授業実践、批判的思考力育成のためのCIスキル、小グループが英語で打ち合わせ、英語でプレゼンテーションできる指導、ディベートの授業実践、ライティング技術の指導、英語を通してより豊かに生きることにつながる授業、これからの大学入試が求める英語力(問題発見・判断・意思決定・解決の力)、現代の大学入試問題はどのような英語力を試そうとしているか、などを取り扱う。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。オンライン(同時双方向型)
OABALP1	英語教育学演習IX	2	1.0	1・2	春AB	金5	人社B615	土方 裕子	「特定目的の英語 (English for specific purposes: ESP)」では、学習者のニーズや言語サンプルを調べる「ニーズ分析」を実施し、それに基づいてコースを設計することが必要である。本講義では、ESPコースの実例を調査し、ESPのコース設計に必要な過程と手法を修得する。受講者の興味に応じて業種別のグループに分かれ、ESPのカリキュラムを作成する演習を行う。	対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦偶数年度開講。 要望があれば英語で授業。対面
OABALP2	英語教育学演習X	2	1.0	1・2					本講義では「特定目的の英語 (English for specific purposes: ESP)」のうち「職業目的の英語 (English for occupational purposes: EOP)」を対象にする。その中で EOP プログラム設計に欠かせない「ニーズ分析」に焦点を当て、実例を分析し、ニーズ分析の手法を修得する。	必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型 西暦奇数年度開講。 要望があれば英語で授業。オンライン(同時双方向型)
OABALQ1	英語教育学演習XI	2	1.0	1・2	秋AB	応談		磐崎 弘貞, 卯城 祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方 裕子	本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に、講義、演習、発表、討論、演示、授業参観など、多面的な学習活動を結合した形で展開する。マイクロ・ティーチング(模擬授業)の機会を多く取り入れながら、オーラル・イントロダクション、発音指導、4技能の指導と統合的指導、コミュニケーションな言語活動、指導案の作成、教科書の活用、発問スキルにもふれる。	14条対応学生のみ履修可 西暦偶数年度開講。 14条対応。オンライン(同時双方向型)
OABALQ2	英語教育学演習XII	2	1.0	1・2					本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に、講義、演習、発表、討論、演示、授業参観など、多面的な学習活動を結合した形で展開する。マイクロ・ティーチング(模擬授業)の機会を多く取り入れながら、学習ストラテジーへの焦点化、授業分析、テスト作成と評価の基礎も学び、4技能の指導と統合的指導についての高度な授業力を身に付けることを目指す。	14条対応学生のみ履修可、対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 14条対応。対面

OABALS1	英語教育学研究IA	2	1.0	1・2	春AB	応談	磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IAでは、国内外の文献研究を中心に検証し、討議しながら進めていく。	各教員の指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。
OABALS2	英語教育学研究IB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IBでは、英語教育学研究IAで修得した専門知識をさらに深化させ、問題意識を研究テーマとして発展させることを目指す。	各教員の指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABALT1	英語教育学研究IIIA	2	1.0	1・2				本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIIAでは、研究テーマをもとに、仮説およびリサーチデザインの立て方および研究の遂行について学ぶことを目指す。	各教員の指導学生に限る。必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型。 西暦奇数年度開講。 オンライン(同時双方向型)
OABALT2	英語教育学研究IIB	2	1.0	1・2				本講義は、外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIBでは、英語教育学研究 IIIAで学んだ研究手法をもとに、研究の成果をまとめることを目指す。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。 西暦奇数年度開講。 対面
OABALU1	英語教育学研究IIIA	2	1.0	1・2	春AB	応談	磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIIAでは、国内外の文献研究を中心に検証し、討議しながら進めていく。	14条対応の各教員の指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。 14条対応
OABALU2	英語教育学研究IIIB	2	1.0	1・2	秋AB	応談	磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IIIBでは、英語教育学研究IIIAで修得した専門知識をさらに深化させ、問題意識を研究テーマとして発展させることを目指す。	14条対応の各教員の指導学生に限る。 西暦偶数年度開講。 14条対応。オンライン(同時双方向型)
OABALV1	英語教育学研究IVA	2	1.0	1・2				本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用したの語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IVAでは、研究テーマをもとに、仮説およびリサーチデザインの立て方および研究の遂行について学ぶことを目指す。	各教員の指導学生に限る。必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型。 西暦奇数年度開講。 14条対応。オンライン(同時双方向型)

OABALV2	英語教育学研究IVB	2	1.0	1・2					本講義は、大学院設置基準第14条(教育方法の特例)に対応する科目として、現職教員等、すでに英語の指導経験を有する学生を対象に行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、英文読解プロセスの理論と指導法や語彙習得、コーパスを利用した語彙研究、教材論やタスク・デザイン、言語熟達度の測定と評価、言語・文化・コミュニケーションの動的な関係、Computer-Assisted Language Learning などについての研究手法を学ぶことを目的としている。英語教育学研究 IVBでは、英語教育学研究 IVAで学んだ研究手法をもとに、研究の成果をまとめることを目指す。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦奇数年度開講。14条対応、対面
OABALX1	英語教育学論文演習I	2	1.0	2	春AB	応談		磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	本科目は、授業担当者が、自ら指導する学生に対して行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、その指導および習得に関して、文献および実証的・実践的な研究を行い、英語教育学についての修士論文執筆を完成させるために必要な、明確な目的意識の涵養と博士論文執筆に関するスキルの修得を目的とする。英語教育学論文演習Iでは、研究倫理に関する知識の確認、専門知識の深化、論文執筆や研究成果の公開等に関わるスキルを演習形式で修得することを目的とする。	各教員の指導学生(主として2年次)に限る。必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型。主専攻必修科目。オンライン(同時双方向型)
OABALX2	英語教育学論文演習II	2	1.0	2	秋AB	応談		磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	本科目は、授業担当者が、自ら指導する学生に対して行う授業である。外国語として英語を学ぶ上で、その指導および習得に関して、文献および実証的・実践的な研究を行い、英語教育学についての修士論文執筆を完成させるために必要な、明確な目的意識の涵養と博士論文執筆に関するスキルの修得を目的とする。英語教育学論文演習Iを受け、この英語教育学論文演習IIは考察した成果を論文としてまとめ、完成させる技術の修得をめざす。	各教員の指導学生(主として2年次)に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。主専攻必修科目。対面
OABALZ1	英語教育学プロジェクト演習 IA	2	1.0	1・2	春ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。西暦偶数年度開講。
OABALZ2	英語教育学プロジェクト演習 IB	2	1.0	1・2	秋ABC	応談		磐崎 弘貞, 卯城祐司, 平井 明代, 小野 雄一, 土方裕子	この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。西暦偶数年度開講。オンライン(同時双方向型)
OABALZ3	英語教育学プロジェクト演習 IIA	2	1.0	1・2					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。西暦奇数年度開講。オンライン(同時双方向型) 必要に応じてオンデマンドを用意したオンライン双方向型。
OABALZ4	英語教育学プロジェクト演習 IIB	2	1.0	1・2					この授業は英語教育学サブプログラムの院生が研究成果を国際学会で発信する力の養成を目的とする。指導教員はプロジェクトへの助言とともに、学術英語の使用、発表スライドおよびポスターの作成を含めた学会発表事前指導を行い、終了後に報告を受ける。学会発表の成果を評価の対象とする。	各教員の指導学生に限る。対面での実施を予定しているが、状況によってオンライン(オンデマンド、リアルタイム配信)に変更することもある。西暦奇数年度開講。対面